

The 23rd Annual Conference of Japanese Association for Research in Family Nursing



日本家族看護学会

第23回学術集会

プログラム・抄録集

会期 2016年 8月27日^土・28日^日

会場 山形テルサ

会長 古瀬みどり 山形大学医学部看護学科

家族を癒すケアの探究
～エンド・オブ・ライフケアの実践～





The 23rd Annual Conference of Japanese Association for Research in Family Nursing

日本家族看護学会

第23回学術集会

プログラム・抄録集

家族を癒すケアの探究 ～エンド・オブ・ライフケアの実践～

会期 2016年 8月27日(土)・28日(日)

会場 山形テルサ

会長 古瀬みどり 山形大学医学部看護学科

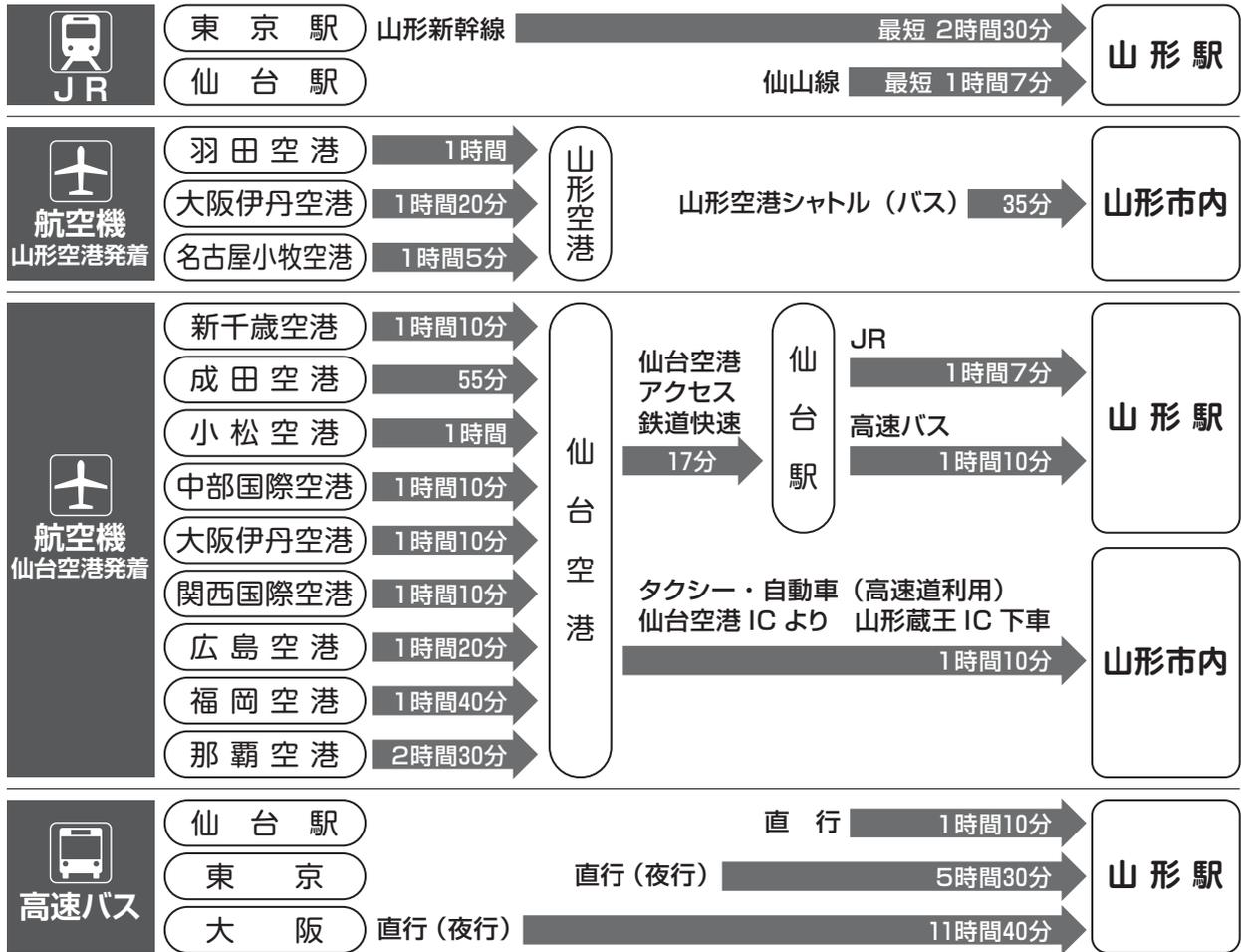
日本家族看護学会第23回学術集会 事務局

山形大学医学部看護学科 臨床看護学講座 成人看護学

〒990-9585 山形市飯田西2-2-2

E-mail: jarfn23-ygt@umin.ac.jp

山形市への交通アクセス

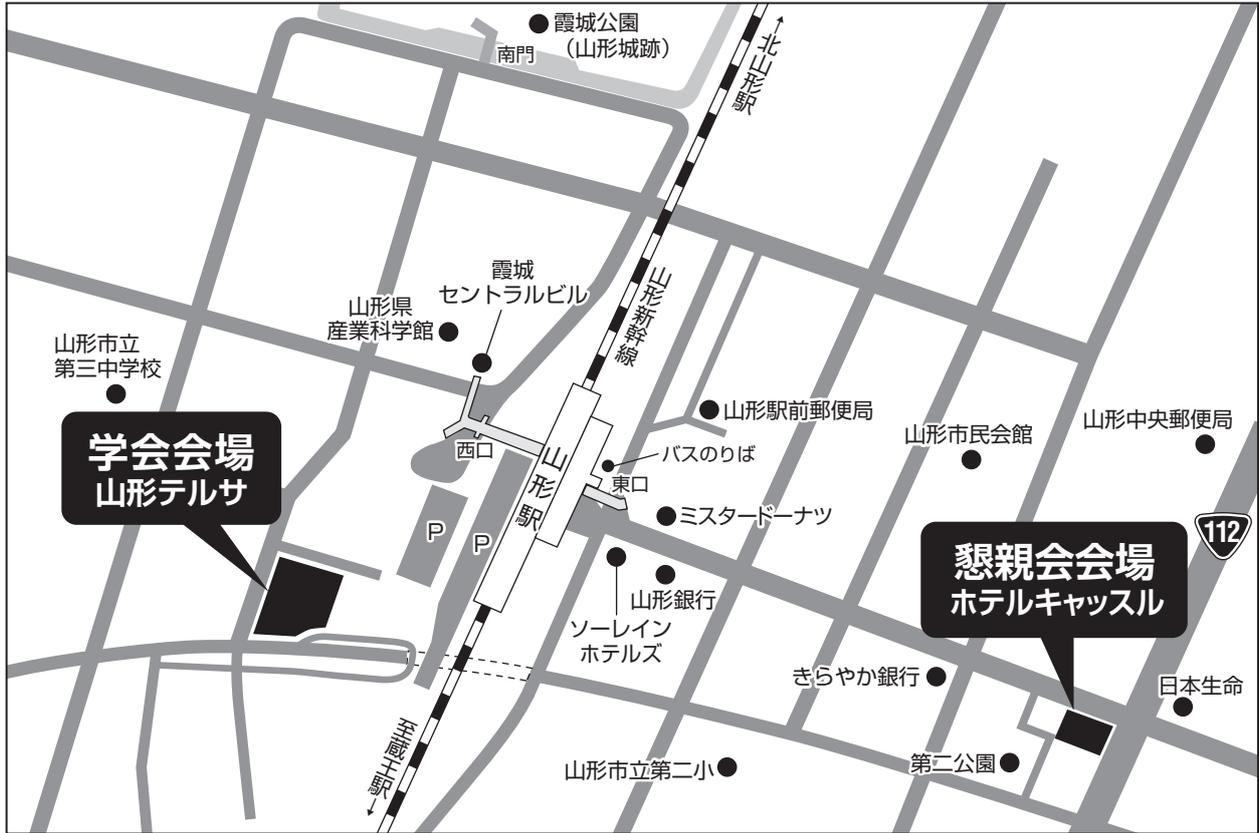


仙台経由でお越しの方へ

- 高速バスはJR線より運行本数が多いです。
- 仙台駅より高速バスで来られる方は、仙台駅2階西口を出て青葉通り左側の歩道に降り、22番バス停より山形行 (山交バス、宮城交通) に乗車してください。
- 山形駅より高速バスで仙台に向かう際のバス停は、山形駅東口1番です。

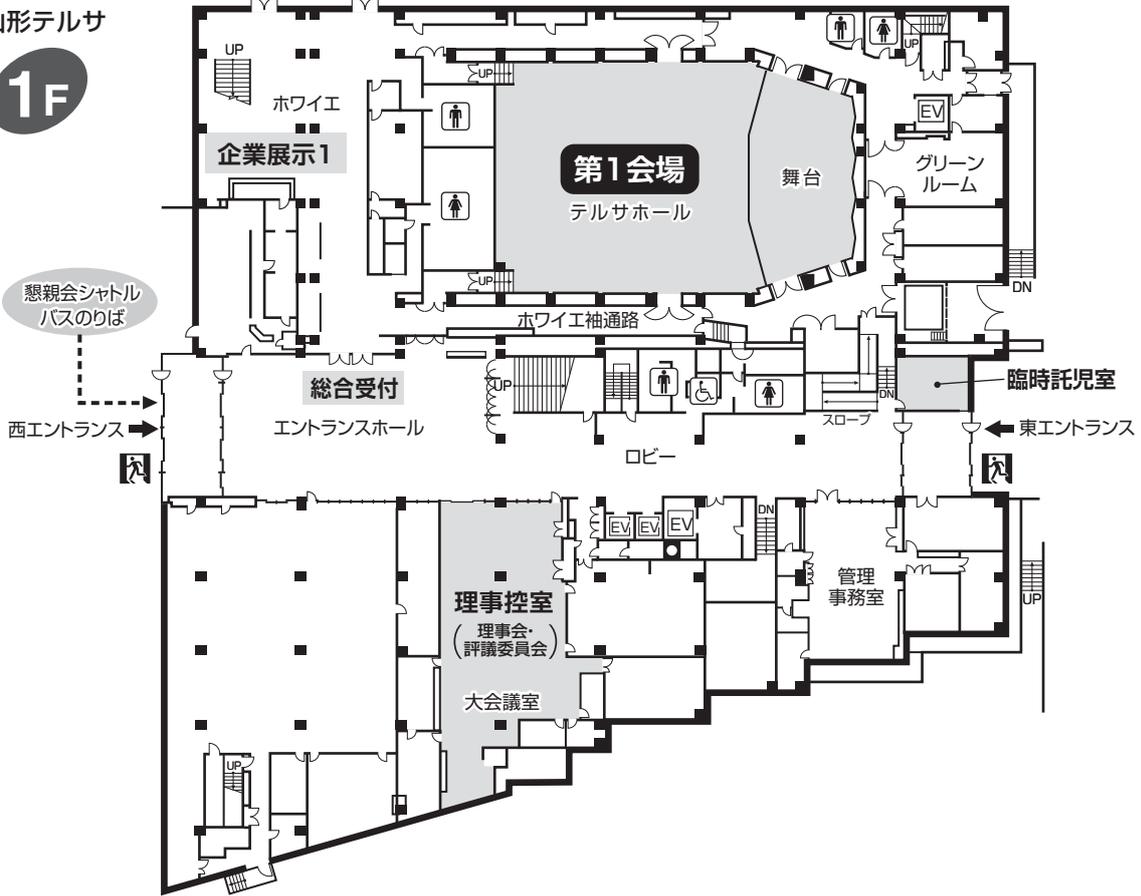


会場案内



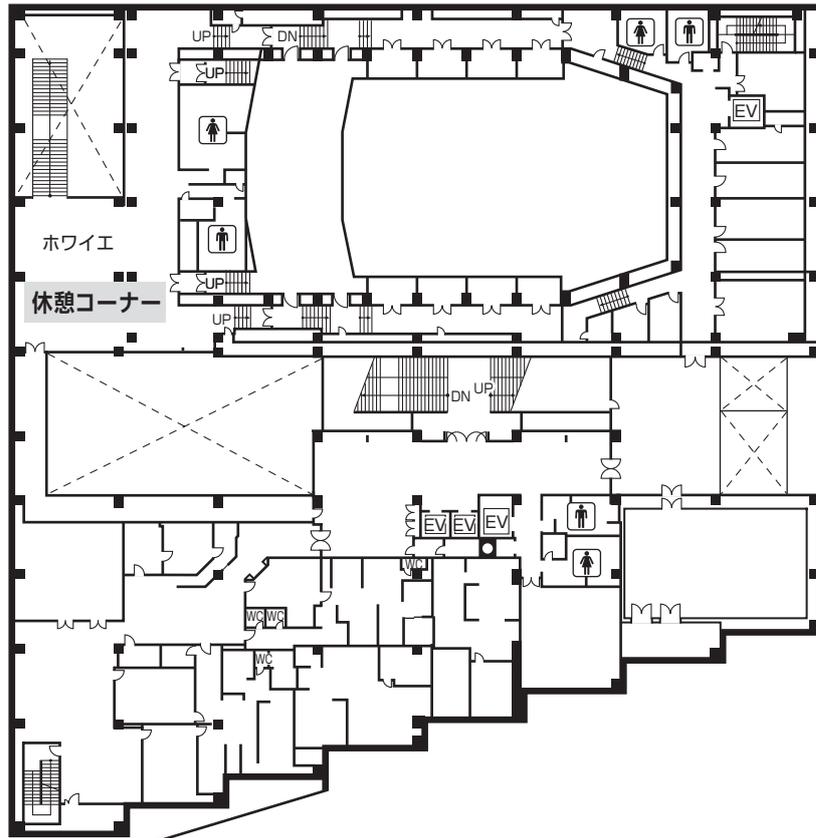
山形テルサ

1F



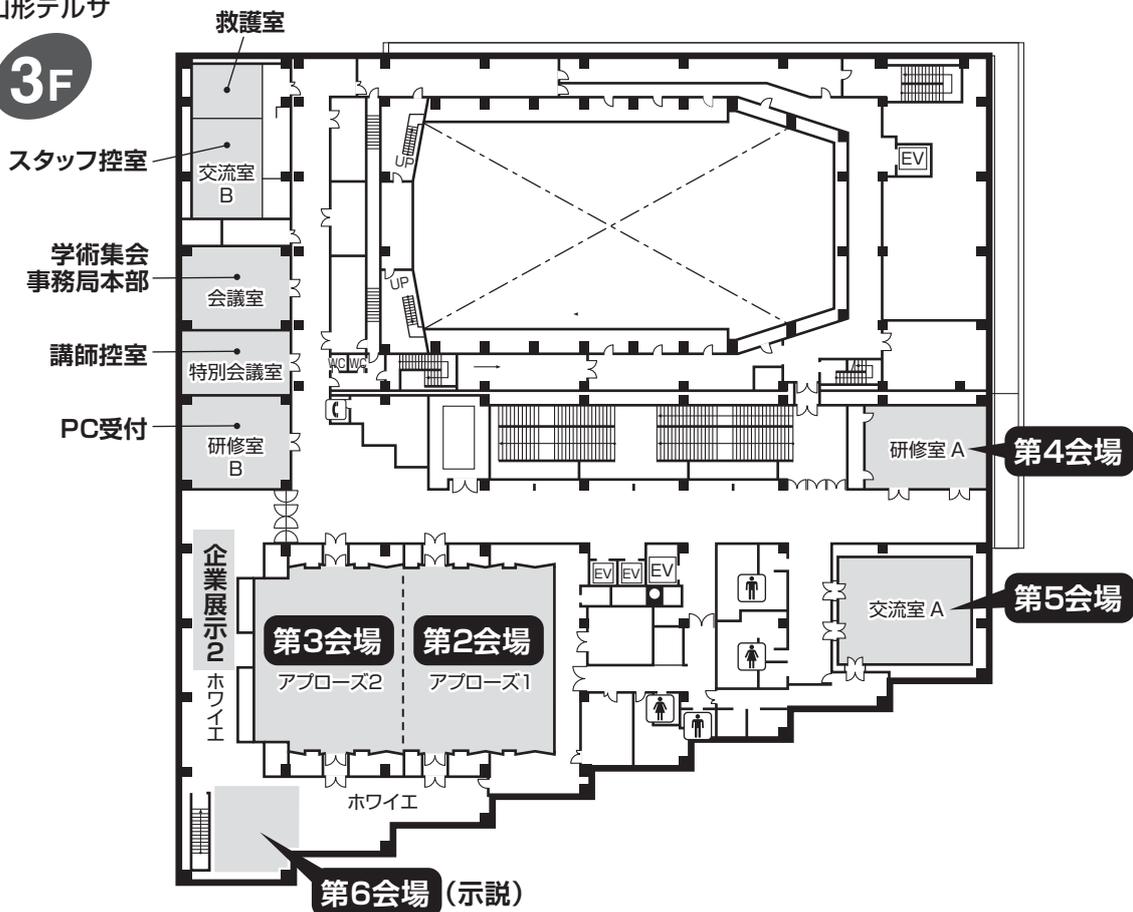
山形テルサ

2F



山形テルサ

3F



1日目 平成28年 8月27日(土)

	第1会場 テルサホール	第2会場 アブローズ 1	第3会場 アブローズ 2	第4会場 研修室 A	第5会場 交流室 A	第6会場 ホワイエ
12:00	12:20～ 開会・オリエンテーション					12:00 ～ 13:00 ポスター 掲示
13:00	12:30～13:10 会長講演 エンド・オブ・ライフケア と家族の癒し 演者：古瀬 みどり 座長：浅野 みどり					13:00 ～ 16:30 ポスター 示説
14:00	13:15～14:10 特別講演 1 認知症高齢者と家族の 支援 ～住み慣れた地域で 最期までをその人らしく～ 演者：蓬田 隆子 座長：古瀬 みどり	13:20～14:10 口演 1 終末期ケアと 家族 座長：上別府 圭子	13:20～14:10 口演 2 障害のある人と 家族/看護教育 座長：泊 祐子			
15:00	14:20～15:40 シンポジウム 1 子どもがいる家族への エンド・オブ・ライフケア シンポジスト： 名古屋 祐子 阿部 啓子 佐藤 律子 座長：塩飽 仁 荒木 暁子	14:20～15:40 ワークショップ 1 「渡辺式」家族 アセスメント/支 援モデル その7 -「渡辺式」看護 介入システムモデ ルの紹介-	14:20～15:40 ワークショップ 2 『家族看護エン パワーメントガイ ドライン』の臨床 への導入と看護 介入の評価 -家族らしく最期ま で生活していくこ とを支える看護-	14:20～15:40 ワークショップ 3 突然の出来事に 直面した家族の 反応をとらえる ～救急事例から～		14:20～ 15:00 自由討論 P-1～ P-15
16:00	15:50～16:50 理事会企画 日本の家族看護におけ る看護師に求められる 能力 -看護基礎教育に おける家族看護学教育の 充実を視座に-	15:50～16:40 口演 3 子どもと家族 1 座長：山本 真実	15:50～16:40 口演 4 急性の健康問題 と家族 座長：瓜生 浩子	15:50～16:50 スイーツセミナー 脳腫瘍の治療とケア -高度実践看護師 への期待- 共催：山形大学医学部 看護学科同窓会 樹氷会		15:00～ 15:40 自由討論 P-16～ P-30
17:00	17:00～18:00 総会					16:30～ 17:00 ポスター 撤去
18:00	18:30～ 懇親会 場所：ホテルキャッスル 3階万葉の間					

プログラム(指定演題)

1日目 8月27日(土)

12:20～12:30 開会・オリエンテーション

第1会場(テルサホール)

12:30～13:10 会長講演

第1会場(テルサホール)

座長：浅野 みどり(名古屋大学大学院)

エンド・オブ・ライフケアと家族の癒し

古瀬 みどり(日本家族看護学会第23回学術集会 会長・山形大学)

13:15～14:10 特別講演1

第1会場(テルサホール)

座長：古瀬 みどり(山形大学)

認知症高齢者と家族の支援 ～住み慣れた地域で最期までをその人らしく～

蓬田 隆子(株式会社リブレ)

14:20～15:40 シンポジウム1

第1会場(テルサホール)

座長：塩飽 仁(東北大学大学院)

荒木 暁子(千葉県千葉リハビリテーションセンター)

子どもがいる家族へのエンド・オブ・ライフケア

S1-1 小児がん患児の家族へのエンド・オブ・ライフケア

名古屋 祐子(宮城県立こども病院)

S1-2 エンド・オブ・ライフにある成人がん患者の子どもの支援

阿部 啓子(静岡県立静岡がんセンター)

S1-3 わたぼうしの会の取り組みから

佐藤 律子(神奈川県立こども医療センター)

15:50～16:50 理事会企画

第1会場(テルサホール)

日本の家族看護における看護師に求められる能力

一看護基礎教育における家族看護学教育の充実を視座に一

浅野 みどり¹⁾、荒木 暁子²⁾、池田 真理³⁾、本田 順子⁴⁾、
中村 由美子⁵⁾、石垣 和子⁶⁾

1) 名古屋大学大学院、2) 千葉県千葉リハビリテーションセンター

3) 東京女子医科大学、4) 神戸大学大学院、5) 文京学院大学、6) 福井県立看護大学

P-50 治療を行わない意思決定をした間質性肺炎の患者とその家族への関わり

○藤原 真弓

宗教法人 在日本南プレスビテリアンミッション 淀川キリスト教病院

P-51 自宅で最期を迎えたいと望む終末期癌患者の意思決定支援と
苦悩する家族への意思決定支援を支えた一症例

○三垣 幸枝

川崎医科大学附属病院

P-52 終末期の在宅看護 ～患者の希望に添った支援～

○佐竹 麻衣、阿部 綾子、和田 美恵

山形大学医学部附属病院

P-53 多様化しつつある悲嘆反応 ―特異的な配偶者喪失の3事例―

○宮林 幸江

自治医科大学

家族への援助方法

第6会場(ホワイエ)

P-54 在宅介護における家族関係アセスメント指標の開発

○島田 なつき¹⁾、法橋 尚宏²⁾、本田 順子²⁾

1) 神戸大学医学部附属病院、2) 神戸大学大学院 保健学研究科 家族看護学分野・家族支援 CNS コース

P-55 家族内コミュニケーション障害の影響因子にもとづいた家族支援策：
家族同心球環境理論に立脚した検討

○道上 咲季^{1,2)}、本田 順子¹⁾、法橋 尚宏¹⁾

1) 神戸大学大学院 保健学研究科 家族看護学分野・家族支援 CNS コース、

2) 国立病院機構 東京医療センター

P-56 退院支援プロセスに内在する「看護の技」
―訪問看護導入に否定的な家族への慎重なアプローチの分析から―

○柄澤 清美¹⁾、猪股 米子²⁾、中村 圭子¹⁾、伊藤 恵³⁾

1) 新潟青陵大学 看護学部 看護学科、2) ささえあいコミュニティ生活協同組合新潟 ささえ愛 あわやま、

3) 社会医療法人 桑名恵風会 桑名病院

P-57 家族の要望に沿った退院支援への振り返り
～退院調整時に求められる病棟看護師の役割を考える～

○源田 愛子、松田 美紀

石川県済生会金沢病院

P-58 マタニティサイクルにある女性とその家族にエンパワメントをもたらす
開業助産師の援助

○小野 智佐子^{1,2)}、入江 多津子³⁾

1) 国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 看護学科、

2) 東洋大学大学院 社会学研究科 社会学専攻 博士後期課程、3) 元国際医療福祉大学大学院

会長講演 8月27日(土) 12:30～13:10

第1会場(テルサホール)

座長: 浅野 みどり(名古屋大学大学院)

エンド・オブ・ライフケアと家族の癒し

古瀬 みどり(日本家族看護学会第23回学術集会 会長・山形大学)

特別講演1 8月27日(土) 13:15～14:10

第1会場(テルサホール)

座長: 古瀬 みどり(山形大学)

認知症高齢者と家族の支援 ～住み慣れた地域で最期までをその人らしく～

蓬田 隆子(株式会社リブレ)

特別講演2・市民公開講座 8月28日(日) 13:00～14:00

第1会場(テルサホール)

座長: 大竹 まり子(山形大学)

人生の最終章をどこで誰と ～ものがたりの力～

佐藤 伸彦(ものがたり診療所)

教育講演 8月28日(日) 10:30～11:30

第1会場(テルサホール)

座長: 斉藤 律子(山形大学医学部附属病院)

エンド・オブ・ライフにおけるがん患者のスピリチュアルケア

田村 恵子(京都大学大学院)

シンポジウム1 8月27日(土) 14:20～15:40

第1会場(テルサホール)

座長：塩飽 仁(東北大学大学院)

荒木 暁子(千葉県千葉リハビリテーションセンター)

子どもがいる家族へのエンド・オブ・ライフケア

S1-1 小児がん患児の家族へのエンド・オブ・ライフケア

名古屋 祐子(宮城県立こども病院)

S1-2 エンド・オブ・ライフにある成人がん患者の子どもの支援

阿部 啓子(静岡県立静岡がんセンター)

S1-3 わたぼうしの会の取り組みから

佐藤 律子(神奈川県立こども医療センター)

シンポジウム2 8月28日回 14:10～16:00

第1会場(テルサホール)

座長：後藤 順子(山形県立保健医療大学)
原 礼子(慶應義塾大学)

最期まで自宅で暮らし続けるための家族ケア

S2-1 エンド・オブ・ライフを見据えた退院支援

後藤 慶(北村山公立病院)

S2-2 食を支える立場から

池田 百合子(ゆにしあ)

S2-3 在宅の豊かさと百歳の煌めき

折居 和夫(折居内科医院)

S2-4 遺族の立場から

荒井 幸子

理事会企画 8月27日(土) 15:50～16:50

第1会場(テルサホール)

日本の家族看護における看護師に求められる能力 —看護基礎教育における家族看護学教育の充実を視座に—

浅野 みどり¹⁾、荒木 暁子²⁾、池田 真理³⁾、本田 順子⁴⁾、
中村 由美子⁵⁾、石垣 和子⁶⁾

1)名古屋大学大学院、2)千葉県千葉リハビリテーションセンター
3)東京女子医科大学、4)神戸大学大学院、5)文京学院大学、6)福井県立看護大学

教育促進委員会企画1 8月28日(日) 9:00～10:20

第1会場(テルサホール)

家族支援専門看護師の教育機能の活用による家族看護実践の普及

山口 桂子¹⁾、中野 綾美²⁾

1)日本福祉大学、2)高知県立大学

教育促進委員会企画2 8月28日(日) 13:00～14:20

第2会場(アブローズ1)

臨床における家族看護実践教育(レベルI;初心者編)の開発

中村 由美子¹⁾、大橋 優紀子¹⁾、藤野 崇²⁾

1)文京学院大学、2)近畿大学医学部附属病院

編集委員会・研究促進委員会共催セミナー

第4会場(研修室A)

8月28日(日) 9:00～10:20

事例研究のすすめ方 ～家族看護実践を描くために～

泊 祐子¹⁾、伊藤 隆子²⁾、上野 里絵³⁾、上別府 圭子⁴⁾、河原 宣子⁵⁾、
中山 美由紀⁶⁾、奈良間 美保⁷⁾、真継 和子¹⁾、野島 敬祐⁵⁾、深堀 浩樹⁸⁾、
山口 桂子⁹⁾、荒木 暁子¹⁰⁾、山崎 あけみ¹¹⁾、池田 真理¹²⁾、小林 京子¹³⁾、
キタ 幸子⁴⁾、藤原 真弓¹⁴⁾

1)大阪医科大学、2)順天堂大学、3)東京医科大学、4)東京大学大学院、5)京都橘大学、
6)大阪府立大学、7)名古屋大学大学院、8)東京医科歯科大学、9)日本福祉大学、
10)千葉県千葉リハビリテーションセンター、11)大阪大学大学院、12)東京女子医科大学、
13)聖路加国際大学、14)淀川キリスト教病院

ワークショップ

8月27日(土)

- ワークショップ1** 第2会場(アプローチ1) 14:20～15:40
「渡辺式」家族アセスメント／支援モデル その7
—「渡辺式」看護介入システムモデル”の紹介—
- ワークショップ2** 第3会場(アプローチ2) 14:20～15:40
『家族看護エンパワーメントガイドライン』の
臨床への導入と看護介入の評価
—家族らしく最期まで生活していくことを支える看護—
- ワークショップ3** 第4会場(研修室A) 14:20～15:40
突然の出来事に直面した家族の反応をとらえる
～救急事例から～

8月28日(日)

- ワークショップ4** 第5会場(交流室A) 9:00～10:20
家族支援 CNS 登場！
—“仲良き家族は美しいのだろうか？”
—現場志向の家族アセスメント／調整の実際—
- ワークショップ5** 第4会場(研修室A) 10:30～11:40
家族看護実践の事例研究を考える：
「日本の現場発看護学」の開発を目指す実践者と
研究者の協働モデル
- ワークショップ6** 第5会場(交流室A) 10:30～11:40
地域に家族看護実践者を支える仕組みをつくり
継続するために！
～岡山家族看護研究会15年の軌跡から～
- ワークショップ7** 第3会場(アプローチ2) 13:00～14:20
家族看護に生かすペアレンティング・プログラム
トリプルP(Positive Parent Program)の多様性
- ワークショップ8** 第4会場(研修室A) 13:00～14:20
機能不全家族の問題と介入方法

スイーツセミナー 8月27日(土) 15:50～16:50

第4会場(研修室A)

座長：佐藤 幸子(山形大学)

脳腫瘍の治療とケア —高度実践看護師への期待—

櫻田 香(山形大学)

共催：山形大学医学部看護学科同窓会 樹氷会

ランチョンセミナー1 8月28日(日) 11:50～12:50

第1会場(テルサホール)

座長：佐藤 悦子(山梨県立大学)

高周波電磁界の健康リスク評価 —WHOの国際電磁界プロジェクトを中心に—

大久保 千代次(一般財団法人電気安全環境研究所 電磁界情報センター)

共催：一般財団法人電気安全環境研究所 電磁界情報センター

ランチョンセミナー2 8月28日(日) 11:50～12:50

第2会場(アプローズ1)

座長：佐藤 和佳子(山形大学)

終末期の排尿管理はどうあるべきか？

鈴木 康之(東京都リハビリテーション病院)

共催：株式会社リリアム大塚

ランチョンセミナー3 8月28日(日) 11:50～12:50

第3会場(アプローズ2)

座長：佐藤 十美(セコム医療システム株式会社 訪問看護ステーション看護部)

地域で支える小児在宅医療 ～それぞれの役割と連携～

増田 夏実(医療法人財団はるたか会あおぞら診療所新松戸)

小松 江美(社会福祉法人三條会地域相談支援センターそれいゆ)

山田 直美(セコム船橋本町訪問看護ステーション)

共催：セコム医療システム株式会社

一般演題

口演

8月27日(土)

第2会場(アプローチ1)

13:20~14:10 **口演1群** 【O-01~O-05】

終末期ケアと家族

第3会場(アプローチ2)

13:20~14:10 **口演2群** 【O-06~O-10】

障害のある人と家族／看護教育

第2会場(アプローチ1)

15:50~16:40 **口演3群** 【O-11~O-15】

子どもと家族1

第3会場(アプローチ2)

15:50~16:40 **口演4群** 【O-16~O-20】

急性の健康問題と家族

8月28日(日)

第2会場(アプローチ1)

9:00~9:50 **口演5群** 【O-21~O-25】

子どもと家族／慢性の健康問題と家族

第3会場(アプローチ2)

9:00~9:50 **口演6群** 【O-26~O-30】

緩和ケアと家族

第2会場(アプローチ1)

10:00~10:50 **口演7群** 【O-31~O-35】

慢性の健康問題と家族

第3会場(アプローチ2)

10:00~10:50 **口演8群** 【O-36~O-40】

子どもと家族2

第2会場(アプローチ1)

14:30~15:20 **口演9群** 【O-41~O-45】

高齢者・認知症と家族／看護管理

第3会場(アプローチ2)

14:30~15:20 **口演10群** 【O-46~O-50】

地域で暮らす人と家族／家族への援助方法

一般演題

ポスター

8月27日(土) 第6会場(ホワイエ)

自由討論 14:20～15:00 P-01～P-15
15:00～15:40 P-16～P-30

【P-01～P-07】 高齢者・認知症と家族

【P-08～P-15】 看護教育

【P-16～P-19】 尺度・指標の開発

【P-20～P-30】 子どもと家族
障害のある人と家族
地域で暮らす人と家族

8月28日(日) 第6会場(ホワイエ)

自由討論 9:50～10:30 P-31～P-46
14:00～14:40 P-47～P-63

【P-31～P-42】 慢性の健康問題と家族

【P-43～P-53】 緩和ケア・終末期ケアと家族

【P-54～P-63】 家族への援助方法

○藤田 敦子、二重 佐知子
姫路大学 看護学部

【目的】 本研究の目的は、終末期高齢者ケアにおける訪問看護師の教育的関わりの傾向を明らかにし、訪問看護師の看取り経験との関連性を検討することである。

【方法】 A 県内の訪問看護ステーション53施設に就労する訪問看護師254名を対象に質問紙調査を行った。調査内容は、看護職の全経験年数、訪問看護の経験年数等の基本属性9項目、経口摂取・嚥下困難のために導入する人工的水分・栄養補給法に関する内容5項目、看取りや死に関する内容14項目等とした。データ収集期間は平成24年11月から平成24年12月、回答済みの調査票は郵送回収し、返信をもって研究協力への同意とした。研究者が所属する大学研究倫理委員会の承認を受け、研究協力者には研究の主旨、自由意思の尊重、匿名性の保持、結果の公表等を文書で説明し実施した。

【結果】 回収率68.9%、訪問看護師の看取り経験有92.8%、無7.2%、終末期高齢者(以下本人とする)・家族の教育的関わり有82.6%、無17.4%であり、看取り経験のある訪問看護師の方が本人・家族に教育的に関わっていた($p < 0.000$)。本人・家族以外への教育的関わりは、訪問看護師、ケアマネジャー共に53.7%、自らの家族・知人47%、介護士46.3%、病院看護師24.4%、一般人・地域住民14.6%、医師11.0%の順であった。教育的関わり内容(本人・家族/本人・家族以外の順に記す)は、身体機能の変化(95.1%/93.0%)、意識状態の変化(95.1%/81.4%)、苦痛(88.1%/86.0%)、本人・家族の意思(88.2%/74.4%)、死に向き合う姿勢(73.4%/

73.3%)、関係職種との関わり(51.7%/50.0%)、死後(31.7%/30.6%)であった。

【考察】 終末期は身体機能の変化に伴い意識状態が変化するが、本人以上に家族はその変化に戸惑い不安を抱く。訪問看護師はこのような終末期ケアを通じた看取りを経験することで、本人・家族の不安状況を具体的に理解し、積極的に教育的な関わりをしていたと考える。終末期には医療・介護保険サービスの調整はさらに必要なため、複数名の訪問看護師が担当し、ケアマネジャーや介護士等への教育的な関わりがあったのではないかと考える。また、訪問看護師は自身の家族や知人、さらに一般の地域住民に教育的に関わっていることから、終末期高齢者ケア、看取りに関する相談や知識の普及・啓発の役割を担っていると考えられる。

【結論】 看取り経験のある訪問看護師の方が本人・家族に教育的に関わっており、特に身体機能・意識状態の変化についての教育的関わりが多かった。また教育的関わりは本人・家族だけでなく、訪問看護師、ケアマネジャー、さらに自身の家族や地域住民に対しても行っていた。

日本家族看護学会第23回学術集会

平成28年7月30日発行

会 長：古瀬 みどり

事務局：山形大学医学部看護学科臨床看護学講座 成人看護学
〒990-9585 山形県山形市飯田西2-2-2
TEL/FAX：023-628-5449
E-mail：jarfn23-ygt@umin.ac.jp

出 版：株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025
<http://www.secand.jp/>

定 価：2,000円(税込)

落丁・乱丁本はお取り替えいたします。無断転載・複製を禁ず